

末法の思想

2017年追試

問4 次の文章は、源信が成仏について論じたものである。その内容の説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 23

『法華経』の方便品ほうべんぽんには、「諸仏は、衆生(生き物たち)に仏の悟りを得させるために、世に出現した」とある。成仏に関する素質の違いがあつて、成仏できない存在がいるという考えもあるが、そのような存在であっても、ある者は仏の悟りを求めようとし、また、ある者は輪廻して悪い境遇に陥ることを恐れ逃れようとするだろう。そうであれば、仏が彼らを救うために世に出現しないなどということが、どうしてあり得るだろう。仏の大慈悲は虫すら見捨てることはない。それゆえ、仏の悟りを得させるというただ一事のために、仏は世に出現したと『法華経』では言われている。このことから、衆生の素質の違いに応じた様々な教えがあるにせよ、これらの教えはすべて仏の悟りを得させるための最高の教えに帰一するのだし、あらゆる衆生はその教えを受けて成仏することができる^{と知らなければならない}。

(『一乗要決』より)

- ① 諸仏の教えは、衆生を成仏させるために説かれている。諸仏は様々な教えを説くにせよ、それらの教えを受けた衆生は、等しく最高の教えに導かれ成仏することになる。
- ② 衆生はいかなる者であれ、諸仏から見捨てられることはない。衆生は各自の素質に合った諸仏の教えを受けて、それぞれに異なる救いを得るべき存在である。
- ③ 諸仏の目的は、衆生に仏の悟りを得させることである。ただし、成仏するための素質が欠如している衆生は、諸仏に見捨てられ、輪廻して悪い境遇に陥ることになる。
- ④ 衆生の素質は様々であるので、誰もが仏になれるわけではない。衆生のうち、諸仏の慈悲にあずかるのは、仏になれる素質の者ではなく、仏になれる

い素質の者である。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第3問	問4	23	①	3

2016 年本試

問 3 次の文章は、伝来した仏教の受容過程について述べたものである。[a] ~ [c] に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①~⑧のうちから一つ選べ。 [22]

奈良時代には、朝廷の主導により、鎮護国家を目的として仏教が盛んに取り入れられた。なかでも聖武天皇は、諸国に国分寺・国分尼寺を建立したり、[a] などの護国経典を僧に読誦させたりして、篤い仏教信仰を示している。また、朝廷は、唐から鑑真を招き、僧となろうとする者に [b] を授けるための制度を整えた。他方、行基らは、灌漑設備や道路・橋を造るといった社会事業を行うとともに、広く民衆に仏教を布教していった。平安中期には、念仏を称えながら諸国をめぐった [c] によって、民衆に浄土信仰が広められた。

- ① a 『維摩経』 b 三 宝 c 空 也
- ② a 『維摩経』 b 三 宝 c 叡 尊
- ③ a 『維摩経』 b 戒 c 空 也
- ④ a 『維摩経』 b 戒 c 叡 尊
- ⑤ a 『金光明経』 b 三 宝 c 空 也
- ⑥ a 『金光明経』 b 三 宝 c 叡 尊
- ⑦ a 『金光明経』 b 戒 c 空 也
- ⑧ a 『金光明経』 b 戒 c 叡 尊

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 3	22	⑦	3

2016 年追試

問 3 日本における浄土信仰の記述として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

22

- ① 正法・像法・末法の段階を経て仏教が衰退するという思想を背景にして，この世を厭^{いと}わしく思い，阿弥陀仏の西方極楽浄土への往生を願う信仰が人々の間に広まった。
- ② 煩悩や苦悩に満ちた現世を離れ，仏の姿や浄土を心に思い浮かべるといふ観想念仏では救済に至らないとして，寺院の建立や仏像の造立を行うことが貴族の間で広まった。
- ③ 近隣諸国との政治的な緊張が高まるなか，仏の力によって災厄を祓^{はら}い，国家の平和を守ろうとする思想により，外敵からの襲撃を防ぎ，敵国の撃滅を祈る信仰が広まった。
- ④ 精神を集中させて瞑^{めい}想^{そう}する修行を，只管打坐として重視することによって，すべての人は他力によって浄土へ往生し，悟りをひらく可能性をもつという教えが広まった。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 3	22	①	3

2014 年本試

問 2 下線部 b に関して，天台宗の僧侶であった源信の説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

21

- ① 諸国を旅し，井戸や池を掘り，阿弥陀仏の名をとなえながら野原に遺棄された死者を火葬して歩き，阿弥陀聖と呼ばれた。
- ② 日本において往生を遂げたとされる人物の伝記を集め，『日本往生極楽記』を著し，後世の往生伝や説話集に，大きな影響を及ぼした。
- ③ 念仏をとなえれば 誰^{だれ}でも往生することができると説き，行き合う人々に念仏札を配りながら諸国を遊行し，拾聖と呼ばれた。
- ④ 極楽浄土や地獄について述べた書物を著し，浄土に往生するためには，阿弥陀仏の姿を心に思い描く必要があると説いた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 2	21	④	2

2013 年本試

問 3 末法についての記述として正しいものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

23

- ① 修行者と仏の教えだけがあって，悟る人が現れない時代が一万年続く。
- ② 修行者も悟る人もなく，仏の教えのみが伝わる時代が一万年続く。
- ③ 修行者も悟る人もなく，仏の教えも消滅した時代が一万年続く。
- ④ 修行者はいるが，仏の教えが説かれず，悟る人もない時代が一万年続く。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 3	23	②	2

2012 年追試

問 3 源信が『往生要集』のなかで主張した思想を表す言葉として、最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 15

- ① おん^り離^え穢^ど土 欣^{ごん}求^ぐ浄^{じょう}土 ② 世^せ間^{けん}虚^こ仮^け 唯^{ゆい}仏^{ぶつ}是^ぜ真^{しん}
- ③ 山^{さん}川^{せん}草^{そう}木^{もく} 悉^{しつ}皆^{かい}成^{じょう}仏^{ぶつ}
でん
伝 ④ 不^ふ立^{りゅう}文^{もん}字^じ 教^{きょう}外^げ別^{べつ}

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 3	15	①	2

2009 年本試

問 3 『往生要集』が重視した修行として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 一切の自力の修行を放棄し、ひたすら阿弥陀仏の慈悲の力にすがる。
- ② 他力にたよらず、ひたすら坐禅に打ち込むことを通して悟りを得る。
- ③ 仏や浄土の姿に心を集中させ、それをありありと思い浮かべる。
- ④ 他の教えを排し、妙法蓮華經への帰依を意味する題目を唱える。

問 6 お彼岸の他界観は、伝統的な祖霊祭祀と浄土思想が習合したものであると言える。例えば近世に成立した古典落語からも、これと同じ他界観の習合が、この時代に生きていたことを読み取ることができる。これに関して、次の引用はある古典落語の一部である。場面は、とある事情から死地に赴くことに同意してしまったお人好しの金蔵が、世話になっている親分に対して、「田舎へ旅に出る」と嘘をつきながら別れのあいさつをしようとしているところである。

に入れるのに最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

親分「で、田舎とって、どっちへいくんだ？」

金蔵「ええ、へまいります」

親分「目あてがあっていくんだろうが、いつごろ帰るつもりだ？」

金蔵「盆の十三日には帰ります」

親分「ふーん、そんなに長くかかるのか。すると、だいぶ遠いな」

金蔵「ひとのうわさで、なんでも十万億土とか……」

(「品川心中」興津要編『古典落語(続)』所収)

- ① 東のほう
- ② 西のほう
- ③ 南のほう
- ④ 北のほう

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第3問	問3	16	③	3
第3問	問6	19	②	2

2009 年追試

問 1 文章中の に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

仏教は、奈良時代には鎮護国家の役割を担ったが、次第に人々のなかに浸透し始めた。平安時代の は、念仏を唱えて諸国を遊^ゆ行^{ぎょう}し、社会事業を通して人々を救おうとした。

- ① 鑑 真 ② 空 也 ③ 明 恵 ④ 最 澄

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 1	13	②	2

2003 年本試

問 7 仏と人々を媒介する存在には、官許を得て出家する僧のほかに「^{ひじり}聖」として敬われる民間布教者があった。代表的な聖の一人、空也の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 25

- ① 阿弥陀仏の名を唱えながら、野原に遺棄された死^し骸^{がい}を火葬して歩き、市中で人々を教化して^{いちのひじり}市聖と呼ばれた。
- ② 都の造営に駆り出されて難民となった人々を率い、東大寺大仏の建立など多くの社会事業を行って、菩薩と仰がれた。
- ③ 山中で修行して得た^{げんりき}験力を駆使して様々な^{じゆじゆつ}呪術を行つたと伝えられ、後に^{しゆげんどう}修験道の祖と仰がれた。
- ④ 行き合う人々に念仏札を配りながら全国を旅して歩き、生活にかかわる一切の束縛を捨て去って^{すてひじり}捨聖と呼ばれた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 7	25	①	3